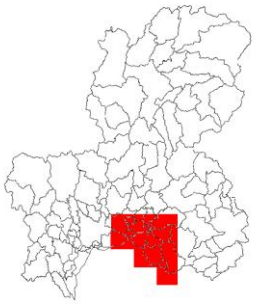
タンザワウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi* Willd. var. *tanzawana* Kigawa	絶滅危惧Ⅰ類
	ウマノスズクサ科	

選定理由	生育地が局限されているうえ、個体数が極めて少ない。	写真（須賀瑛文）
形態の特徴	木本性のつる植物。葉は円心形から三角状心形、鈍頭あるいは鋭頭、葉裏の葉脈上に長い開出毛を密生する。全体がオオバウマノスズクサに似るが、オオバウマノスズクサの花の開口部は淡黄緑色で、紫褐色の細い線状模様を生じるのに対して、これは花の開口部に赤褐色の模様が目立つ。	
生態的特徴	明るい林縁などに生育する。開花期は5月。	
分布状況	日本に固有で、関東地方から東海地方にかけて分布する。岐阜県では県南中部で1カ所採集された記録があるのみ。	
減少要因	開発や森林伐採などによる生育地の破壊が考えられる。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責：高橋弘